

## ROTARY CONNECTS THE WORLD

ロータリーが世界をつなぐ

2019～20年度年度

国際ロータリー会長 Mark・D・Maloney



## 東京麹町ロータリークラブ

### 本日の例会プログラム

第5回例会 2019.8.5(#2246) 会場:舞の間

例会ホスト・紹介係 保科君 会費係 藺君

受付係 乳井君 藤田君

司会者 浅野君 ソングリーダー 吉田君

### 卓話「各委員長就任挨拶」

福田プログラム・秋山会員増強・時園会員選考・植芝会報雑誌・  
飯嶋親睦・浅野R情報・保科健康管理各委員長

### 前回の報告

第4回例会 2019.7.29(#2245)

納 涼 会  
芝 とうふ屋うかい

### 会長報告

- 1) 本日は恒例の納涼会お集り頂きありがとうございます。ようやく梅雨が明け、猛暑がやってきました。1800坪の美しい日本庭園を眺め、涼を味わって頂きたいと存じます。
- 2) 米山奨学生のリュウ・カンさん、9月からイギリスへ留学するR財団奨学生の戸田祐太さんが参加です。
- 3) 7/27日には健康管理委員会の発案で、神宮外苑のバッティングセンターで野球の醍醐味を楽しみました。

### 幹事報告

- 1) 本日は、お集まりいただきありがとうございました。
- 2) 10月16日には中央分区ゴルフ予選会がございます。来期は当クラブがスポンサーになりますので、多くのご参加をお願いいたします。
- 3) 8月19日は休会日ですが6時から新入会員向けの研修会を開催致します。入会5年以内の方は必ずご出席下さい。また、そのほかの会員の方も奮ってご参加下さい。

### 例会記録

会員総数	45名	出席会員数	23名
ゲスト	3名	その他	10名
ビジター	6名	事務局	2名
海外ビジター	0名	出席率	62.89%

7月15日 Make-up 後の  
出席率 86.09%

#### 【今週のMU状況】

中谷会員(7/29 東京中央新RC)



### 次回予告

第52期 第6回例会 2019.8.26(#2247)

会場:舞の間

例会ホスト・紹介係 地引君

受付係 澤本君 莊村君

会費係 時園君

司会者 浅野君

ソングリーダー 吉田君

### 卓話「各奉仕委員長就任挨拶」

久保田R財団委員長

細谷米山奨学委員長

時園SAA委員長

浅野姉妹クラブ・IM実行委員長

内田クラブ研修リーダー

8月12日、19日は夏休みの為休会です。  
8月19日 18:00～新入会員向けのセミナー開催  
(入会5年以内の方は出席義務です)

## 東北すくすくプロジェクト 2020 年にむけて

東京RCチャレンジ 100 委員会長 橋本 有史氏 (6/10 卓話)

東京ロータリークラブでは、10 年ごとに長期のプロジェクトを実施しており 80 周年に当たる 1999 年から 10 年間は、「ロータリークリアランドプロジェクト」としてカンボジアでの対地雷除去活動に取り組みました。このプロジェクトは国際的な地雷除去団体であるヘルトラストとの協業でしたが、10 年間に約 130 万平方メートルの土地の地雷除去を行い 26000 人が居住可能な土地を作り上げました。

次の活動を協議しているところ東日本大震災が起きました。そのため震災被災地への支援を前提に種々の検討を行いました。2011～2020 年の 10 年間は東北の支援、特に新しい命の支援をしようと「東北すくすくプロジェクト」に取り組むこととなりました。新しい命への支援は短期的には意欲を、中期的には消費を、長期的には地域発展のための人材を生み出します。この事業は、「子育て支援施設の整備」「支え合うコミュニティ作り」「子育てに係る人材育成」の三つの柱で構成されています。

東北すくすくプロジェクトでは現在まで大きく分けて3つの事業を行なっています。最初に取り組んだ事業は津波で流された陸前高田市の子育て支援センター「あゆっこ」の復興です。東日本大震災復興基金から 1100 万円の補助を頂き、東京 RC も 1000 万円を拠出して 2012 年の立春に竣工しました。コミュニティの場ができたことで、集まったお母さんグループが仮設住宅のお年寄りの支援を始めるようになり助け合いの輪が広がったことは全く予期していなかった成果です。また、このプロジェクトで整備のお手伝いを行なった施設には「東北すくすくプロジェクト」という銘板の設置を行うと共に、東京ロータリーの花である「ハナミズキ」の植樹を行なっておりますが、「あゆっこ」でもハナミズキが毎年紅白の美しい花をつけます。

さて、震災直後は地域外からの直接的支援が広く行われますが翌年度からは状況が変わります。震災後、各地より寄せられた資金、物品、人材の支援は2年目以降ほとんどが終了してしまいます。2年目以降は外から直接何かをするのではなく、地域の人たちが互いに支え合うコミュニティ、地域の人たちによる地域の支援が重要になってきます。東北すくすくプロジェクトではそれらの状況を踏まえ、「ママサロン」や「母乳育児支援セミナー」の開催を通じて支え合うコミュニティ作り、母子支援のための人材の育成を行っています。

一方でこれらを進めるにあたり、気仙沼市にはそのようなコミュニティを育てる場所がなく小児科医院の待合室を借りている状況であり、陸前高田「あゆっこ」のようなコミュニティの場を気仙沼に作る必要性が出てきました。このプロジェクトではそれらを踏まえ気仙沼市に「気仙沼すくすくハウス」を整備することとしました。

ここまで進んだ段階で、新しい発見がありました。この母子への支援がロータリー財団の「未来の夢計画」の重点項目であると共に財団の勤める内容がコミュニティ作りや人材育成など「東北すくすくプロジェクト」で進めていることそのものだったことです。企画した内容はロータリー財団の内容を見てのものではなく結果として一致したものです。これは東北すくすくプロジェクトの内容が今回の事業固有のものではなく、母子支援の世界標準になっていることを示しています。今後世界の何処かで被災地の母子支援が必要になれば今回の経験がそのまま活かせることに他なりません。

これらを踏まえ気仙沼すくすくハウスの整備には、ロータリー財団のグローバル補助金の申請を前提に準備を進めることになりました。それまで日本では援助される側としてのグローバル補助金の利用はほとんどなく大型プロジェクトとしては東京ロータリーが最初のチャレンジとなりました。補助金の申請に当たっては被災地クラブが直接的な受け皿となる必要があると共に海外からの寄付が全事業費の 3 割を超える必要があります。受け皿として気仙沼ロータリークラブにお願いするとともに海外の多数のクラブ、ロータリアン個人の支援を得て総額 20 万ドルのプロジェクトとして立ち上がりました。この過程において、チャレンジ 100 委員会委員、多くの会員の協力があつたことは言うまでもありません。気仙沼すくすくハウスは地元の子育て中のお母さんにはなくてはならない施設となり毎年延べ 3000 名以上の利用があります。また地元のお祭りに団体で参加するなどその活動は当初想定した内容を大きく超えるものになっています。気仙沼すくすくハウスを始めすくすくプロジェクト全体としては年間 600 万円程度の費用が掛かっています。これらの費用は会員からの寄付のほか、東京ロータリーの各種行事からの寄付、また 2580 地区内の寄付によって賄われています。

さてグローバル補助金は、恒久的な人道支援の「きっかけ」です。気仙沼すくすくハウスも東京ロータリークラブが支援を行う 2020-2021 年度以降も気仙沼における機能を維持していかなくてはなりません。これらを踏まえ2年前より気仙沼市の支援を得るべく活動してまいりましたが、結果気仙沼すくすくハウスは気仙沼市に 2018 年 4 月に開館する新しい子育て支援施設の幼稚園未就園児のエリアに合流することになりました。新施設は気仙沼市にあった古町児童館の移転、新築を行うものですが、この古町児童館には未就園児や妊婦に対するノウハウがなかったため気仙沼すくすくハウスの理念やノウハウを引き継いでいます。この新施設へも記念にハナミズキを寄贈し、また室内にはロータリーの銘板が設置を行いました。

さて、東北すくすくプロジェクトは 2020-2021 年度まで被災地の子育て支援を行います。新たに3つの事業を行なって参ります。まず、気仙沼市の新月地区に新たに子育て支援施設の整備を行いその運営を行ないます。この地区は新児童センターから遠く子育て支援の手薄な場所で、場所の選定にあたっては気仙沼市とも相談の上決め、本年 9 月 10 日にオープンいたしました。次に、「あゆっこ」や気仙沼市の新児童施設、石巻ほか多数の施設において気仙沼すくすくハウスで行なっていたコミュニティプログラムや人材育成プログラムを実施していきます。今年からは福島県の浪江町も対象となりました。福島は原発事故被災地という特別な地域で今までは子育て支援の対象外としていましたが、除染も進んだ現在その対象としました。

3番目は東京ロータリークラブが直接立ち上げた陸前高田、気仙沼の活動のみならずその他の子育て支援団体をつなぐ「すくすくネットワーク」の構築です。東北各地では自治体のみならず多くの奉仕団体が母子支援に取り組んでおりますが、これらの施設、団体をつなぎ交流を図って行くことによりさらなる交流が生まれ、ノウハウの蓄積や共同イベント等を通じての活動の活性化が図られると考えています。

最後に 2020-2021 までの3年間の課題についてお話させていただきます。まず今回整備、運用を開始した新月地区の拠点を恒久的な拠点とすることです。このためにはこの拠点が地域にとってなくてはならない拠点として気仙沼市に認めて頂き将来的な補助に結びつけていかななくてはなりません。気仙沼市とも相談し決めた場所で可能性は十分にあり、恒久活動となるように努力してまいります。

次は、この 10 年間の活動のデータの保存、記録、報告書の作成です。10 年間の間には多くの活動が行われまた実績として残っています。ここでのノウハウや記録をまとめるとともに東京ロータリークラブの歴史として残していきたいと思っております。最後は最終年度 2020-2021 年度に予定する終了イベントの企画と実施です。最初に「あゆっこ」を利用した2~3歳の子供たちも中学生になる年になります。10 年を振り返り次の東北の子育て、次の東北の発展につながるイベントを企画したいと考えています。

プロジェクト終了まで3年を切りましたが最後まで誠実にやりとげその成果、勢いを次の 10 年プロジェクトに引き継いでいきたいと思っております。引き続き、皆様のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

## クラブだより No.5

中央分区親睦ゴルフ予選会にご参加下さい。

10 月 16 日(水)

会場: 相模原ゴルフカントリー

☆来年は当クラブがホストクラブとなります。

皆様のご協力をお願いいたします。



「RI マーク・ダニエル・マローニー会長の今月の一言」

2019-2020 年度、「ロータリーのさらなる成長をもたらそう」と私はロータリアンとローターアクターに呼びかけています。奉仕活動やプロジェクトの影響をさらに発展させていかななくてはなりません。そして何より、今後さらに多くのことを成しとげるために会員数を伸ばす必要があります。

会員増強のために、これまでよりも組織だった、戦略的なアプローチをとりましょう。経歴が異なる委員で構成される、活動熱心な会員増強委員会を設立し、地域のリーダーたちをかたはしから見てください。

それから、地域内のさまざまな職業がしっかりと反映されるように作られたロータリーの職業分類を用いて、クラブを強化してくれるスキルと才能、性格を兼ねそなえたリーダー候補を見つけましょう。どうすればいいのかわからないようであれば、Rotary.org のクラブ会員増強委員会チェックリストを参照して、組織だった活動を行うために定められたステップを確認しましょう。

ロータリーの成長をうながすために、ほかにどのような形でつながることができるでしょうか。独立したクラブでも衛星クラブでもよいので、今までとは違う形の会合を行い、人びとの心をつかむ奉仕の機会を提供する新しい種類のクラブを結成しましょう。既存のロータリークラブがない地域だけではなく、すでに立派なクラブがあるところでもです。地域内のすべての層に奉仕できるロータリークラブは、世界広しと言えども存在しません。ですので、既存のクラブとつながれないでいる地域のリーダーに働きかける、新しいクラブを結成しなければならないのです。

ロータリーの成長促進は、世界でロータリーを唯一無二の存在にしているつながりを増強していくことでもたらされます。ロータリーが世界をつなぐ中で、ロータリーのさらなる成長をうながし、次世代の多様な女性と男性をロータリーに迎え入れることに全力で取り組んでいきましょう。

## 東京麹町ロータリークラブ

設立	1968 年 6 月 17 日	〒102-0093
例会日	月曜日 12:30	千代田区平河町 1-3-8
例会場	ホテル・ニューオータニ	平河町プラザ 204 号
		TEL:03-3263-9220
会長	佐藤 茂	FAX:03-3263-9122
幹事	荒川 和幸	e-mail office@koujimachi-rc.jp
会報委員長	植芝 守央	URL: www.koujimachi-rc.jp